

アンケート結果について

【目的】

演題発表に関する会員の困り感やニーズを把握する

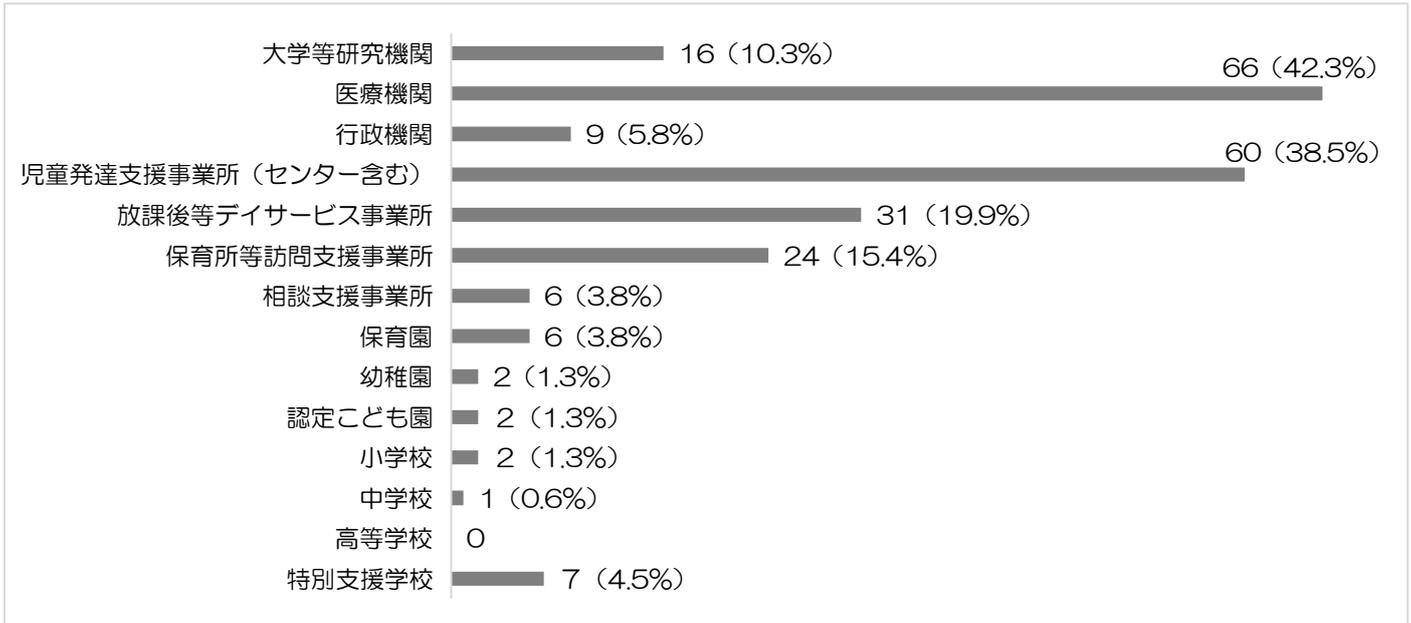
【方法】

- アンケート実施期間：2023年10月3日～13日
- 実施方法：会員へ一斉にメール配信し、Googleフォームにて回答を依頼

【結果】

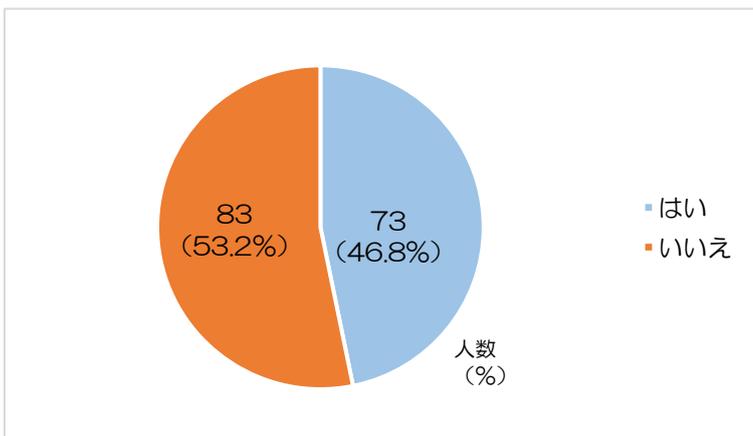
- 回答数：155件 *会員の1割程度

質問1：所属について



その他：児童相談所・教育センター・自営業・養成校（専門学校）・入所施設・フリーランス など

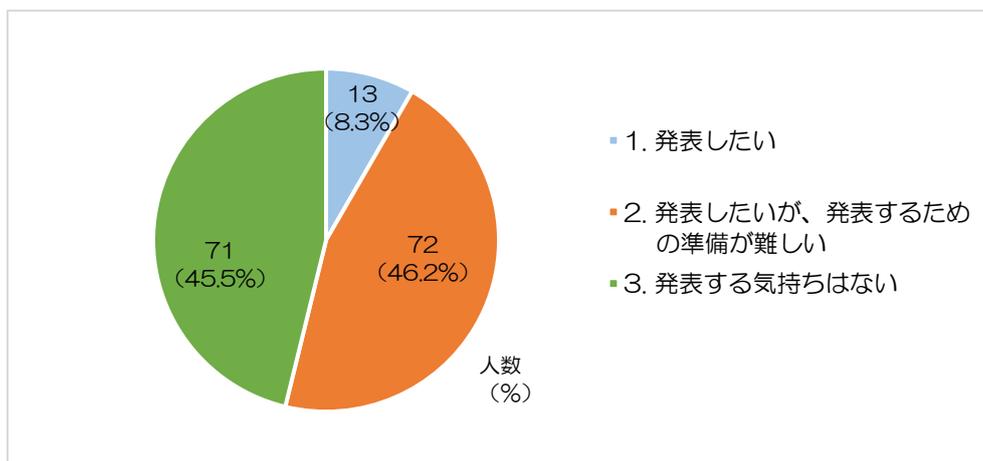
質問2：過去に感覚統合学会に限らず、学会が主催する研究大会で発表したことはありますか？



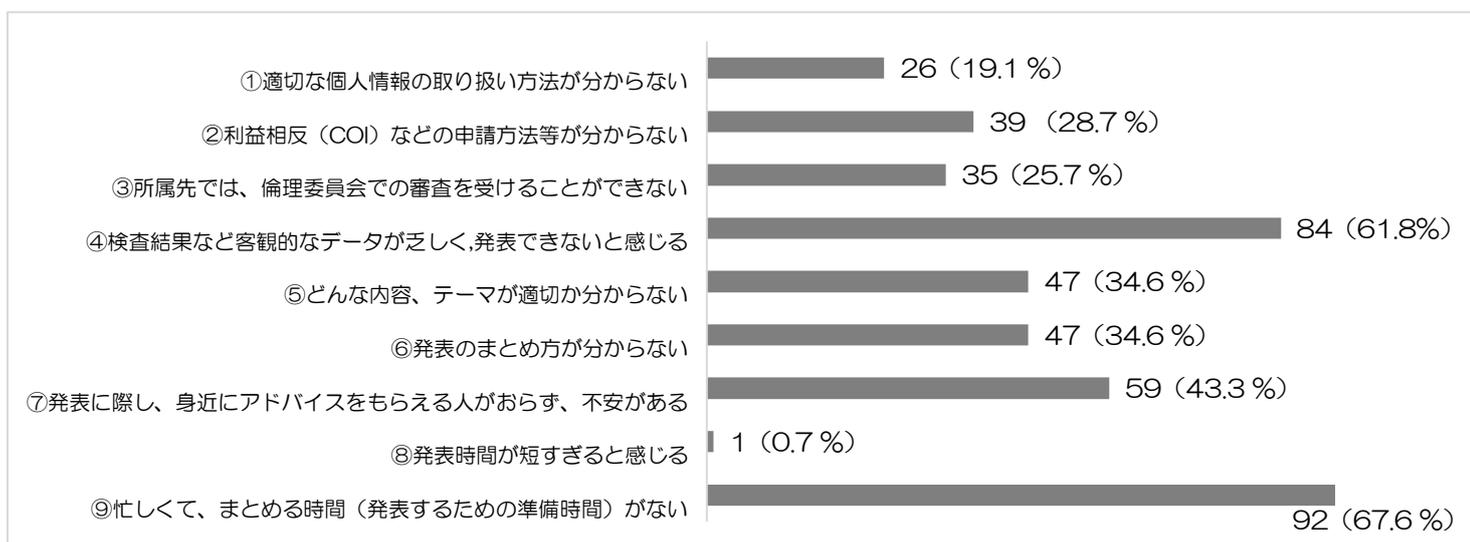
質問3：主な発表学会

- 作業療法学会（県土会を含む）
- 感覚統合学会
- 発達系作業療法学会
- DCD学会
- LD学会
- など

質問4：今後、感覚統合学会研究大会で発表したいと思いますか？



質問5：質問4で、「2. 発表したいが、発表するための準備が難しい」「3. 発表する気持ちはない」を選択した場合、その理由をお選びください。※複数回答可（回答数 136 件）



上記以外のその他の理由（要約して抜粋）

- どのような発表が良いのかわからない
- 感覚統合、感覚統合療法に対する疑問
- 理論的背景と実践の関連付けの説明のしにくさ
- OT などのセラピストではない
- 一緒にまとめるスタッフが身近にいない
- 症例の同意を得にくい（本人、保護者、職場）
- 対象となる人と直接の関わりがない
- 学会テーマとの不一致
- 研究する場所がない
- 職場の体制
- 育休中

など

質問6：その他、発表に際し相談したい内容や『講座』で説明して欲しいことなど、ご自由にご記入ください。

自由記載内容をカテゴリーごとに分類、要約した。主に、以下3種の意見があった。

- ① 身近でアドバイスを受けてたい
 - ・研究方法や、まとめ方に関すること
 - ・実践に関すること
- ② 発表の範囲を教えてほしい → 「感覚統合療法」、「感覚統合理論を活かした支援」とは
- ③ そのほか

① 身近でアドバイスを受けてたい

＜研究方法、分析方法について＞

- ・ 実践報告の流れなど
- ・ 研究の方法（質的、量的、事例）、分析方法について
- ・ ケーススタディの方法、検査実施困難事例について
- ・ 統計的分析方法、データの扱い方
- ・ 倫理的配慮
- ・ 結果のまとめ方

＜まとめ方に関すること＞

- ・ データ収集方法
- ・ 評価の必要項目、症例情報の内容、配慮事項
- ・ プレゼンテーションスキル、方法
- ・ 講師、インストラクターの報告
- ・ 他の人の実践を知る手がかりがほしい（事例集など）

＜アドバイスが欲しい＞

- ・ 治療場面に対するアドバイス
- ・ 相談できる人がいない場合の対応策（過去の経験など）
- ・ 実践に対する不安がある（セラピスト以外の実践へのアドバイス）

② 発表の範囲に関すること、定義

- ・ 学会発表のハードルが高い
- ・ 発表のテーマを示してほしい
- ・ 発表の基準、内容の適応
- ・ 感覚統合療法と感覚統合遊びの明確な違い
- ・ 青年、成人期の実践

③ そのほか

- ・ 発表のハードルが下がる形式の検討
- ・ 共同研究への道のり
- ・ 発表することの意義、モチベーションの高め方